

● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 札幌証券取引所
公告方法	電子公告により行う (http://www.hokkanholdings.co.jp/)に 掲載いたします。ただし、事故その他やむを得 ない事由により電子公告をすることができな いときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-782-031(フリーダイヤル)
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/ index.html

● 株主優待のお知らせ

毎年3月31日(基準日)現在の株主名簿に記載された株主様に対し、当社グループの容器に入った缶詰を年1回、以下のとおり贈呈いたします。

贈呈基準

所有株式数	ご優待内容
100株以上1,000株未満	2,000円相当の缶詰詰合せ
1,000株以上2,000株未満	3,000円相当の缶詰詰合せ
2,000株以上	5,000円相当の缶詰詰合せ



HOKKAN HOLDINGS

ホクカンホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
TEL 03-3213-5111(代表)

URL: <http://www.hokkanholdings.co.jp/>

● 各種お手続きについて

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

【未払配当金の支払について】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

【「配当金計算書」について】

配当金のお支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主様は大切に保管ください。

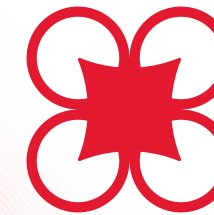
【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。

特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。



この冊子は環境への配慮のため、FSC®森林認証紙とベジタブルオイルインキを使用しています。



HOKKAN HOLDINGS

株主の皆様へ

HOKKAN REPORT Vol.28

第95期上半期 株主通信

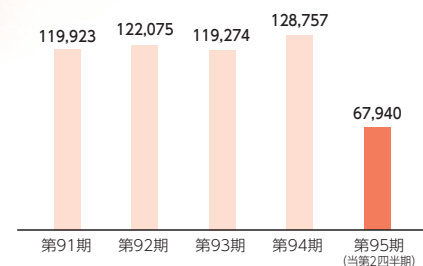
2019年4月1日～2019年9月30日

ホクカンホールディングス株式会社

(証券コード:5902)

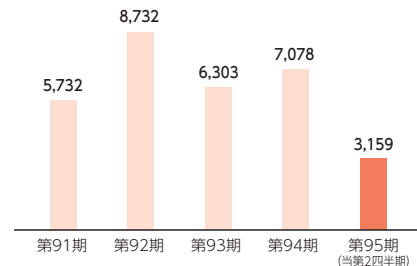
売上高

単位：百万円



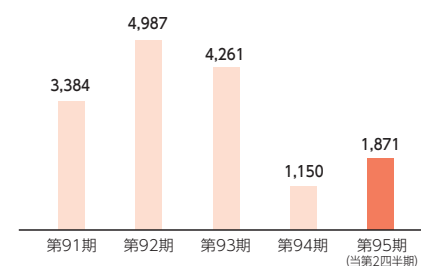
経常利益

単位：百万円



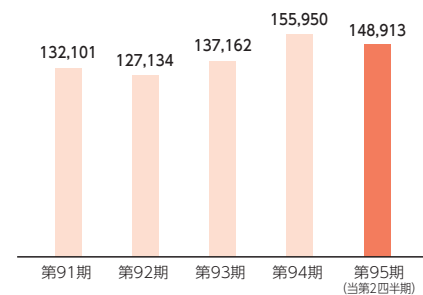
親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益

単位：百万円



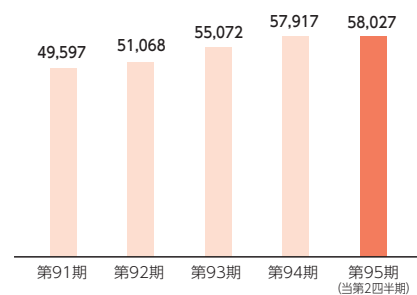
総資産※1

単位：百万円



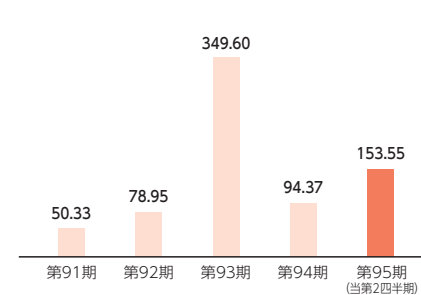
純資産

単位：百万円



1株当たり四半期(当期)純利益※2

単位：円



項目		第91期	第92期	第93期	第94期	第95期(当第2四半期)
売上高	(単位:百万円)	119,923	122,075	119,274	128,757	67,940
経常利益	(単位:百万円)	5,732	8,732	6,303	7,078	3,159
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(単位:百万円)	3,384	4,987	4,261	1,150	1,871
総資産※1	(単位:百万円)	132,101	127,134	137,162	155,950	148,913
純資産	(単位:百万円)	49,597	51,068	55,072	57,917	58,027
1株当たり四半期(当期)純利益※2	(単位:円)	50.33	78.95	349.60	94.37	153.55

※1 第94期より、『税効果会計に係る会計基準』の一部改正を適用したため、第93期については、遡及適用後の数値を記載しております。

※2 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。第93期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第95期上半期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の営業の概況ならびに計算書類について、ご報告申し上げます。

● 当上半期の業績および営業概況

当上半期におけるわが国経済は、設備投資は増加傾向を続けており、また、個人消費も雇用・所得環境の改善を背景に引き続き緩やかな回復基調で推移する状況となりましたが、一方で海外情勢においては、米中両国の通商問題の動向や英国のEU離脱問題など世界経済に与える影響が懸念され、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような情勢のなかで、当社グループは業績の向上を目指し、各分野で努力してまいりました結果、当上半期の連結総売上高は679億40百万円(前年同期比0.4%増)、営業利益は49億54百万円(前年同期比9.1%減)となりましたが、持分法による投資損失を営業外費用に計上したことにより、経常利益は31億59百万円(前年同期比46.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億71百万円(前年同期比54.7%減)となりました。

当上半期の清涼飲料業界の状況につきましては、大型ペットボトル製品の値上げを一部のお客様が実施したこと、また昨年の夏場の猛暑から一転して7月の記録的な低温の影響等により、清涼飲料業界全体では前年を下回る結果となりました。

カテゴリー別で見ますと、紅茶飲料につきましては各社にて新製品を発売するなど好調に推移し、また無糖茶系飲料につきましては前年並みに推移しましたものの、ミネラルウォーターやスポーツドリンク等につきましては7月の記録的な低温の影響等により、前年を下回る結果となりま



代表取締役社長

池田 孝 資

した。またコーヒー飲料につきましてはペットボトルが堅調に推移しましたものの、通常缶およびリール缶(ボトル缶)が前年を下回りましたため、前年並みに推移する結果となりました。

食品缶詰業界につきましては、水産缶詰では、カニおよびホタテ等の一部の原料不足は解消されつつあるものの、原料価格の高止まりが続いた影響等により、前年を下回る結果となりました。農産缶詰につきましても、前年を下回る結果となりましたため、食品缶詰業界全体では、前年を下回る結果となりました。

● 事業別の概況

● 容器事業

(メタル缶)

① 飲料缶・食品缶

飲料用スチール空缶につきましては、B T缶(固形物の出易いくびれ缶)等の販売が好調に推移しましたものの、主力の缶コーヒーが、ペットボトルへのシフト等の影響により前年を下回りましたため、飲料用スチール空缶全体では前年を下回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、水産缶詰では一部原料価格の高止まりや当社お取引先様の工場が災害に見舞われた影響等により前年を下回る結果となり、農産缶詰につきましても前年を下回る結果となりましたため、食品缶詰用空缶全体では、前年を下回る結果となりました。

② その他

エアゾール用空缶につきましては、塗料等の一般缶や燃料ポンベ缶等が堅調に推移しましたものの、主力の殺虫剤関連製品において販売が低調でありましたため、エアゾール用空缶全体では前年を下回る結果となりました。

また、美術缶につきましては、菓子缶等の贈答用商品が好調に推移しましたものの、海苔缶等が前年を下回りましたため、美術缶全体では前年を下回る結果となりました。

(プラスチック容器)

① 飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、アセプティック(無菌充填)による充填工場でのインラインブローの拡大や7月の記録的な低温の影響により前年を若干下回る結果となりました。また、無菌充填用プリフォーム(ボトル成型前の中間製品)につきましては、販売が堅調に推移したこと等により前年を若干上回る結果となりましたが、プリフォームを含む飲料用ペットボトル全体では、前年を若干下回る結果となりました。

② 食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、贈答用商品の販売



が減少したものの、リサイクル可能なPET素材の二重構造バリアボトルの販売が好調に推移しましたため、食品用ペットボトル全体では、前年を上回る結果となりました。

③ その他

一般成形品につきましては、化粧品用やトイレタリー用の新製品の新規受注等がありましたため、前年を上回る結果となりました。また、バッグインボックスにつきましても前年を上回る結果となりましたため、一般成形品全体では前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は205億9百万円(前年同期比0.2%増)と増加となり、営業損失は45百万円(前年同期は営業損失1億13百万円)となりました。

● 充填事業

(缶製品)

缶製品につきましては、リシール缶(ボトル缶)については受注が堅調に推移しましたものの、缶コーヒーがペットボトルへシフトした影響等により、通常缶を含めた缶製品全体では前年を下回る結果となりました。

(ペットボトル製品)

ペットボトル製品につきましては、アセプティックを含む大型ペットボトルはミネラルウォーターの受注が堅調に推移したものの、7月の記録的な低温の影響等により、前年を下回る結果となりました。また、小型ペットボトルにつきましても、前年を下回る結果となりましたため、ペットボト

ル製品全体では前年を下回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造販売を営むくじらい乳業株式会社を加えた充填事業全体の売上高は399億29百万円(前年同期比6.1%減)となり、営業利益は52億44百万円(前年同期比9.2%減)となりました。

● 機械製作事業

機械製作事業につきましては、自動車部品生産設備や消耗金型製作等の受注が好調に推移しましたため、機械製作事業全体の売上高は14億47百万円(前年同期比5.0%増)となりましたが、営業利益は2億15百万円(前年同期比10.2%減)となりました。

● 海外事業

インドネシアにつきましては、容器(ペットボトル)製造から内容物の充填までを一貫しておこなうPT.HOKKAN INDONESIA(ホッカカン・インドネシア社)では、主要なおお客様の販売が堅調に推移しましたため、前年並みに推移する結果となりました。なお、前期に設立しておりますPT.HOKKAN DELTAPACK INDUSTRI(ホッカカン・デルタパック・インダストリ社)は第1四半期連結会計期間において、同国における飲料用パッケージ製造業者であるPT.DELTAPACK INDUSTRIグループ会社7社より、清涼飲料用容器事業を譲り受け、事業を開始しており堅調な販売を続けております。

また、ベトナムにおいて清涼飲料の受託充填事業を営んでおりますNIHON CANPACK(VIETNAM)CO.,LTD.(日本キャンパック・ベトナム社)は、一部のお客様による内製化の影響により、前年を下回る結果となりました。

以上の結果、海外事業全体の売上高は46億83百万円(前年同期比154.0%増)となり、営業利益は1億53百万円(前年同期比15.6%増)となりました。

● その他

化粧品等製造販売を営む株式会社コスメサイエンスは、中国、韓国等海外需要の急激な後退から一部お客様の受注が鈍化したため、前年を下回る結果となりました。

以上の結果、工場内の運搬作業等を行っております株式会社ワーク・サービスを加えたその他全体の売上高は13億70百万円(前年同期比5.2%減)となり、営業利益は35百万円(前年同期比60.4%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当上半期の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

● 下期へ向けて

下期のわが国経済の見通しにつきましては、国内における雇用・所得環境の改善が進んでいるものの、中東をはじめ世界各地で発生している情勢不安や10月1日から施行された消費税増税の影響等、景気の先行きは依然不透明な状況となっております。

このようななか、当社グループにおきましても、原材料価格やエネルギーコストの上昇が鈍化したものの高止まりが続いており、また、夏場の天候不順や水産原料不足等の影響により販売が伸び悩むなど厳しい環境下にありますが、前期から今期にかけておこなった設備投資を活用した販路の拡大や一層のコスト削減等により、当社グループ各社の期初目標達成に向けて事業運営を進めております。

また、新規事業・海外事業におきましては、インドネシア共和国において今期から事業を開始した飲料用パッケージ製造会社PT. HOKKAN DELTAPACK INDUSTRIの販売拡大に注力してまいります。

当社グループは、今後も中期経営計画「FUTURE-5」の基本方針に従い、これから中核となる事業、成長させていく事業において、集中的な経営資源の投下を行い、将来に向けて確固たる礎を築いてまいります。

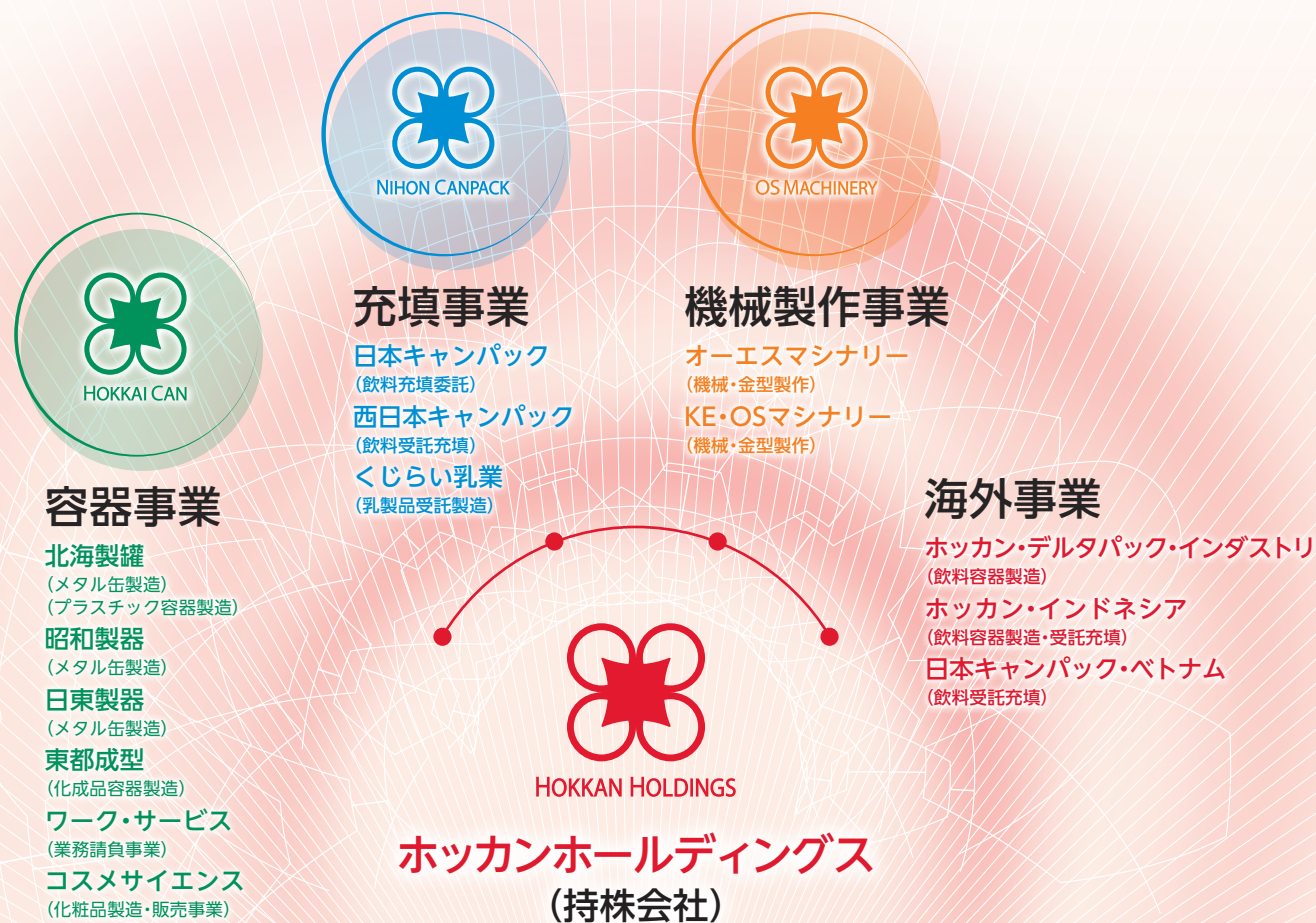
株主の皆様におかれましては、今後ともご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、通期の連結業績は売上高1,360億円、経常利益52億30百万円、親会社株主に帰属する当期純利益26億34百万円を見込んでおります。

以上ご報告のとおりでございますので、中間配当金につきましては、1株につき18円75銭とし、2019年12月10日にお支払いすることといたしました。

ホッカンホールディングスは グループ事業会社全体の力を統合し、 さらに高いレベルの「ものづくり力」を追求します。

当社は持株会社として、各事業を強化するとともに、グループ企業との
アライアンスの発展を図ってまいります。そして、“最大より最高”をモットーに、
品質と価格の両面を併せ持つ「ものづくり力」を高めてまいります。



OS MACHINERY

オーエスマシナリー株式会社において 新包装形態「V-パック」包装充填機械を開発

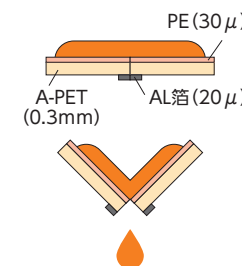
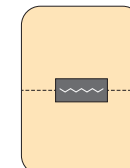
当社子会社であるオーエスマシナリー株式会社では、新包装形態「V-パック」用包装充填機械の開発を開始しております。現在の小袋包装体は、切れ目を探し両手を使い開封する際の煩わしさや液飛びなどの問題があり、これに着目して、切れ目に関係なく片手で、簡単に開封可能な包装体が市場においてまだ浸透されていないことをきっかけに、開発に着手いたしました。

「V-パック」は食品、医薬品、化粧品など防湿性を高めるためのピロー包装の一種であり、①片手で簡単に開封 ②手を汚さず開封 ③注ぎ出しやすい ④高齢化社会に貢献できるといった特徴があり、開封した際の形状がアルファベットの「V」のように見えることから、「V-パック」としております。

「V-パック」のバリエーション

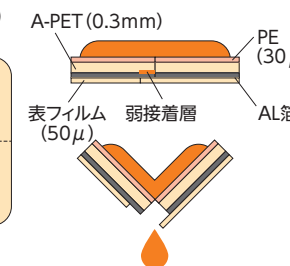
破断開封方式

食品用途



剥離開封方式

食品以外 (医薬品・化粧品等)



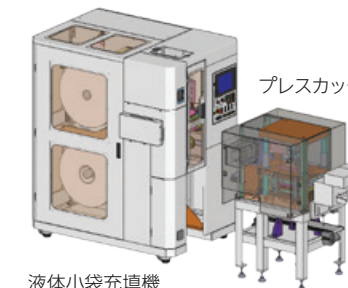
「V-パック」の製品仕様と生産能力

製品仕様

品種	寸法(mm)	容量(cc)
S	40×30	1
M	70×50	5
L	100×60	10

生産能力

100個/分 (2列の場合、200個/分)



液体小袋充填機

プレスカッター

「V-パック」製造機械は、充填包装機本体と個包装体とするプレスカッターからなります。

※本装置は、デモ機となり、生産機とは仕様異なる場合がございます。

Financial Data 四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2019年9月30日現在	前期 2019年3月31日現在	科目	当第2四半期 2019年9月30日現在	前期 2019年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	48,284	53,156	流動負債	49,392	57,646
現金及び預金	2,328	1,982	支払手形及び買掛金	19,867	21,283
受取手形及び売掛金	26,715	29,696	短期借入金	17,336	21,286
電子記録債権	4,472	3,918	リース債務	736	753
たな卸資産	11,827	10,766	未払法人税等	1,686	1,233
その他	2,962	6,816	賞与引当金	928	912
貸倒引当金	△22	△24	独占禁止法関連損失引当金	—	3,557
			その他	8,836	8,620
固定資産	100,629	102,794	固定負債	41,492	40,386
有形固定資産	73,654	74,918	長期借入金	34,410	32,662
建物及び構築物	25,953	26,605	リース債務	3,051	3,270
機械装置及び運搬具	24,951	24,791	繰延税金負債	548	972
土地	16,340	16,340	役員株式給付引当金	12	—
リース資産	4,275	4,646	退職給付に係る負債	3,082	3,091
建設仮勘定	1,199	1,580	その他	387	389
その他	933	954	負債合計	90,885	98,032
無形固定資産	5,815	3,338	純資産の部		
投資その他の資産	21,158	24,537	株主資本	50,595	48,987
投資有価証券	18,238	22,122	資本金	11,086	11,086
長期貸付金	448	496	資本剰余金	11,108	11,070
繰延税金資産	12	33	利益剰余金	30,371	28,789
退職給付に係る資産	163	246	自己株式	△1,970	△1,959
その他	2,347	1,696	その他の包括利益累計額	3,994	5,388
貸倒引当金	△52	△58	その他有価証券評価差額金	5,445	6,632
資産合計	148,913	155,950	繰延ヘッジ損益	—	△0
			為替換算調整勘定	△936	△670
			退職給付に係る調整累計額	△514	△574
			非支配株主持分	3,437	3,542
			純資産合計	58,027	57,917
			負債純資産合計	148,913	155,950

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
売上高	67,940	67,667
売上原価	54,956	54,956
売上総利益	12,983	12,711
販売費及び一般管理費	8,029	7,260
営業利益	4,954	5,450
営業外収益	545	661
営業外費用	2,340	193
経常利益	3,159	5,919
特別利益	519	234
特別損失	89	265
税金等調整前四半期純利益	3,589	5,888
法人税・住民税及び事業税	1,584	1,761
法人税等調整額	105	△37
四半期純利益	1,899	4,164
非支配株主に帰属する四半期純利益	28	34
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,871	4,129

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,858	7,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,585	△6,549
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,904	△823
現金及び現金同等物に係る換算差額	△22	△3
現金及び現金同等物の増減額	345	24
現金及び現金同等物の期首残高	1,982	1,329
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,328	1,354

利益配分に
関する基本方針

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めております。剰余金の配当につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様への安定した配当を行うことを基本方針としております。

2020年3月期配当
(1株当たり)

中間配当

18.75円

期末配当

23.75円(予想)

株式の状況 (2019年9月30日現在)

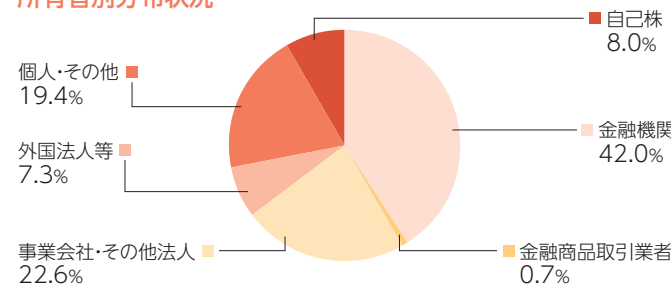
発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	13,469,387株
株主数	5,386名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	654	5.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	642	5.18
株式会社みずほ銀行	594	4.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	456	3.68
農林中央金庫	400	3.23
東京海上日動火災保険株式会社	361	2.91
ホッカホールディングスグループ取引先持株会	354	2.86
株式会社北海道銀行	353	2.85
JFEスチール株式会社	313	2.53
株式会社メタルワン	260	2.10

(注1) 持株数は千株未満を切捨てて表示しております。
 (注2) 当社は自己株式1,072,972株を所有していますが、上記大株主からは除いております。
 (注3) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



会社概要 (2019年9月30日現在)



商号	ホッカホールディングス株式会社 HOKKAN HOLDINGS LIMITED
本社	東京都千代田区丸の内二丁目2番2号 丸の内三井ビル TEL03-3213-5111
設立	1950(昭和25)年2月1日 (創立 1921(大正10)年10月23日)
資本金	110億8,652万4,995円
従業員数	35名
事業内容	(1) 各種空罐、容器の製造販売 (2) 清涼飲料水・酒類その他各種飲料の受託充填および販売 (3) 乳製品・菓子類の受託製造販売 (4) レトルト食品の受託製造販売 (5) 各種化粧品受託製造販売 (6) 各種機械の製造販売 (7) 機械器具設置工事業 (8) 倉庫業 (9) 土木・建築工事の設計、施工請負

役員 (2019年9月30日現在)

取締役



工藤常史 取締役会長(代表取締役)	池田孝資 取締役社長(代表取締役)	藤本良一 取締役副社長	佐藤泰祐 取締役常務執行役員
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------	--------------------------



武田卓也 取締役執行役員	砂廣俊明 取締役執行役員	安藤信彦 取締役(社外)	宮村百合子 取締役(社外)
------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------

監査役



竹田由里 常勤監査役	小池明夫 監査役	田代宏樹 監査役(社外)	鈴木徹也 監査役(社外)
----------------------	--------------------	------------------------	------------------------